

ネパールへの周産期医療推進

高知大とAMDAが協定

技術協力、人材育成で連携

高知大医学部（南国市岡豊町小蓮）と民間の国際医療救援団体「AMDA（アムダ）」（岡山市、菅波茂理事

長）は26日、ネパールへの周産期医療（出産

前後の母子への医療）の技術協力など、国際社会貢献活動や人材育成の推進で連携する協定を結んだ。

AMDAは84年設立、01年にNPO法人

となった。30カ国に支部を持ち、「多様性の共存」を基本理念に50カ国で戦争や自然災害の被災者への医療救援活動などに携わる。



協定を結んだAMDAの菅波茂理事長（左）と高知大医学部の脇口宏医学部長（右）

象地域はネパール。同医学部が力を入れている周産期医療を柱に、AMDAが運営するネパール子ども病院（ブトワル市）などで医療技術協力を実施する。

また、留学生の受け入れや同大の看護師、医学生の実地派遣も計画している。

同大であった締結式で、菅波理事長は「日

本の素晴らしい医療技術、人材を世界に紹介するいい一歩になる」

とあいさつ。同大の脇口宏医学部長は「学生諸君には本来の医師のあり方、心を今以上に高いレベルに持ってほしい」と期待を語った。【千脇康平】